

目次

改訂第2版	はじめに	II
初版	はじめに	III
<i>Chapter 1</i>	「学振」の基礎知識	1
1.1	「学振」とは	2
1.2	特別研究員の制度概要	2
1.3	特別研究員 DC1/DC2 の申請資格	4
1.4	特別研究員 PD の申請資格	7
1.5	特別研究員 RPD の申請資格	9
1.6	どうすれば「学振」を取れるのか？	10
1.7	近年の「学振」採用率を見る	11
1 章の関連情報		13
	「学振」は有名な大学／先生／ラボじゃないと取れない!?	14
<i>Chapter 2</i>	審査のしくみ	17
2.1	審査の流れ	18
2.2	審査区分	20
2.3	審査区分の選び方	24
2.4	書類選考のプロセス	26
2.5	書面審査の採点方式	28
	T スコアから計算できるもの	33
	面接選考について	34
2 章の関連情報		36
	「学振」採用者に聞いてみた その1	36

Chapter 3	申請書の書き方	39	4.4	わかりやすい申請書を目指して(紙面デザイン編)	84
3.1	「学振」の審査基準	40	フォント選び	84	
3.2	「良い申請書」とは?	41	フォントサイズ	88	
3.3	申請書には何を書くのか?	42	余白をつくる	88	
3.4	『2.【研究計画】(1)研究の位置づけ』	44	箇条書き	89	
3.5	『2.【研究計画】(2)研究目的・内容等』	48	文字装飾	89	
3.6	『2.【研究計画】(3)受入研究室の選定理由』(PDのみ)	53	図の配置	90	
3.7	『3.人権の保護及び法令等の遵守への対応』	57	文献の引用方法	91	
3.8	『4.【研究遂行力の自己分析】』	60	文章が枠内に収まらない時の手段	92	
3.9	『5.【目指す研究者像等】』	64	申請書を書くときに使うかもしれない Word の小技	93	
3.10	評点要素から書くべきことを考える	65	Tex で学振申請書を書く	95	
3.11	研究課題名を考える	67	4.5	わかりやすい申請書を目指して(内容編)	97
3.12	評価書を書いてもらう	69	専門用語には枕詞をつける	97	
3章の関連情報	72	具体性をもたせる	98		
「学振」採用者に聞いてみた その2	72	項目ごとにサブタイトルで概要を言い切るテクニック	98		
Chapter 4	申請書を書く、磨く	77	ひと目でわかる概念図を作る	99	
4.1	申請書はいつ書き始める?	78	4.6	最初のページが肝	100
4.2	まず最初にやること	79	4.7	業績アピールのコツ	101
4.3	「学振」情報の収集	79	業績として書けること	101	
「学振」のウェブページ・募集要項を熟読する	80	『4.【研究遂行力の自己分析】』欄を“埋める”ために	101		
他人の申請書を入手して読む	80	業績リストのスタイル, その他	102		
他人が作った学振申請書の書き方指南や感想文を見ても	82	日頃から努力しよう	103		
指導教員の科研費申請書をお願いして見せてもらう	82	4.8	何度も校正する	104	
科研費申請書の書き方指南を見ても	83	4.9	これまでの研究には触れないのか?	105	
		4.10	行き先は早めに決める(PD)	105	
		4.11	ダメ元でも申請する	106	
		4章の関連情報	106		
		「学振」採用者に聞いてみた その3	109		

Chapter 5	申請後にできること	111
5.1	自分のウェブサイトをつくろう	112
5.2	採用されたら	112
	「学振」の採用手続き	112
	科研費「特別研究員奨励費」の申請	115
	その他	116
5.3	不採用だったら	116
5.4	今からできること～ B4, M1 の学生へ	117
5 章	関連情報	119
	DC 持ちは大学の授業料免除申請ができない!?	119
Chapter 6	本当に「学振」が良いのか?～「学振」の義務や待遇, 今後について	121
6.1	「学振」に課せられる義務	122
6.2	「学振」の給与の現実, 節税の工夫	125
6.3	「学振」の良くない面	128
6.4	「学振」の良いところ	128
6.5	「学振」と科研費の関係	129
6.6	「学振」以外の助成など	130
	博士学生向け	130
	博士学生も応募可能な研究費	133
	博士学位取得後の人向け	133
6 章	関連情報	135
	学振 PD の保育園入園活動(保活) 事情など	136
Appendix	実際の学振申請書 (Sample 1 ～ 8)	141
	索引	198